

第13回 EASTS コロンボ会議

The 13th EASTS Conference in Colombo, Sri Lanka宮木祐任¹ 石井良治² 河上翔太³ 廣瀬 健³ 森尾 淳⁴ 杉田 浩⁵

By Masataka MIYAKI, Ryoji ISHII, Shota KAWAKAMI, Takeshi HIROSE, Jun MORIO and Hiroshi SUGITA

1 はじめに

EASTS (Eastern Asia Society for Transportation Studies) は、交通計画、交通工学の分野に関わる研究を中心に取り扱った学会であり、隔年で国際会議を開催している。第13回EASTS国際会議は、2019年9月9日～12日の4日間にわたって、スリランカのコロンボにて開催された。本稿では、国際会議の概要を紹介する。

2 EASTS

冒頭でも簡単に述べたが、EASTSは、交通計画や交通工学に関する分野を横断的に取り扱う国際学会であり、アジアにおける産官学の専門家が交通問題に関する議論、研究、人的交流を広く活性化させることを狙いとして、1994年に設立されたものである。これまでに、19の国あるいは地域が参画している。

EASTSでは、本体となる国際学会の他に、各国／各地域における独自の学会を設立することにより、各国／各地域間のネットワークを形成している。日本においては、1995年にEASTS - Japan (アジア交通学会) が設立され、国際会議やシンポジウム等を通じて、アジア地域の交通専門家と活発な情報交換を行っている。

EASTSの国際会議は、1995年の第1回マニラ会議以降、隔年で開催されており、アジア地域の大学研究者だけでなく、行政や実務も含めた交通専門家の学術交流や情報交換の場となっている。

3 EASTS コロンボ会議

第13回EASTSコロンボ会議においては、“Redesigning Transport & Logistics for the Rise of Asia” をテーマとして、アジア・太平洋地域からおよそ454本の論文が発表された。

表-1 EASTS参画国/地域¹⁾

参画国/地域名		
オーストラリア	ラオス	シンガポール
カンボジア	マレーシア	スリランカ
中国	モンゴル	台湾
香港	ミャンマー	タイ
インドネシア	ネパール	ベトナム
日本	ニュージーランド	
韓国	フィリピン	(計19地域)

(出典：EASTSのHPの情報から作成)

表-2 EASTS国際会議の開催都市¹⁾

回数	開催年	開催都市
第1回	1995年	マニラ (フィリピン)
第2回	1997年	ソウル (韓国)
第3回	1999年	台北 (台湾)
第4回	2001年	ハノイ (ベトナム)
第5回	2003年	福岡 (日本)
第6回	2005年	バンコク (タイ)
第7回	2007年	大連 (中国)
第8回	2009年	スラバヤ (インドネシア)
第9回	2011年	済州 (韓国)
第10回	2013年	台北 (台湾)
第11回	2015年	セブ (フィリピン)
第12回	2017年	ホーチミン (ベトナム)
第13回	2019年	コロンボ (スリランカ)

(出典：EASTSのHPの情報から作成)

基調講演では、香港理工大学土木環境工学科のChair ProfessorであるWilliam H.K. Lam教授による“Pedestrian Planning in Hong Kong”、EASTSの副会長であるAmal S. Kumarage教授による“Managing Motorization in Middle Income Countries”の2つの講演が行われた。

その後、3日間にわたって口頭発表セッション、ポスターセッション、スペシャルセッションが行われた。2日目午後には“Best Practices in Transport Policy Formulation: Global Perspectives”と題して、Research for Transport and Logistics Industry (R4 TLI) と共同のスペシャルセッションが

1都市地域・環境部門 研究員 2データサイエンス室 研究員 3交通・社会経済部門 研究員

4都市地域・環境部門 グループマネジャー 博士(工学) 5特任研究員 博士(工学)

開催された。また、4日目には7種類のテーマのテクニカルツアーが開催された。

コロンボ会議のトピックは表-3の通り、その内容は極めて多岐に渡るが、アジア地域の交通の課題としては、依然として交通安全への関心が高いように見受けられた。加えて、都市物流に関する発表も比較的多く見受けられた他、観光事業とレジャー活動に関するセッションが設けられており、通勤や通学以外の活動に関する関心が高まっているように感じられた。

当研究所からは、石井研究員が東京都市圏のPTデータを用いて子育て層の移動や活動に影響を与える要因の分析をした論文を、河上研究員が東京都市圏の5時点の東京都市圏PTデータを用いて世代・ライフステージとともに交通行動がどう変化したか分析した論文を、宮木研究員が一都四県におけるニュータウン等の時間的空間的分布と高齢社会の進展についての論文を、廣瀬研究員が高齢者への運転免許返納支援策の有効性を比較し各施策が効果を発揮する条件を分析した論文をそれぞれ発表した。

表-3 コロンボ会議におけるトピックス

トピック	セッション
交通一般	アジア特有の課題、調査とデータ収集、交通と自然災害
交通の経済と政策	プライシング、事業評価、持続可能な交通政策、新たな運輸業（カーシェアリング/相乗り/バイクシェアリング/パーソナルモビリティ）、観光事業とレジャー活動
交通需要分析と予測	交通行動分析、ネットワーク分析と交通量配分
物流と貨物輸送	物流と貨物輸送政策、都市物流、交通と都市/地域の発展
地域の計画と環境	都市・地域計画、土地利用と空間分析、交通と環境、TDM/モビリティマネジメント、気候変動と交通
公共交通と自転車・徒歩	都市間鉄道、バス・BRT、歩行者・自転車、小型バスとパラトランジット
道路のデザインと維持管理	舗装、道路維持管理
道路交通工学	運転操作と運転者のモデリング、交通流分析、高速道路の容量とサービス水準、ITS、新技術（C-ITS、自動運転、IoT）
交通事故と交通安全	事故分析、運転挙動と安全、安全対策評価
航空と水上交通	航空/水上交通の運営と管理
実践的トピック	工学・技術・設計、政策・計画・管理、アジアの都市の鉄道開発施設、性別と輸送の関係、アジアでの物流ネットワークと多様性等

（出典：第13回EASTSプログラムより作成）



写真-1 会場の様子（筆者撮影）
（左：基調講演/右：ポスターセッション）

表-4 本研究所職員の発表論文

投稿者	テーマ
石井、毛利、石神、福田	Analysis of Maintenance Activities among Child-rearing Households in the Tokyo Metropolitan Area
河上、杉田、毛利、森尾、森田	Changes in Travel Behaviors of Life Stage Relative to Period and Generation
宮木、河上、井村、大門、森尾	A Study on Aging and the Spatiotemporal Distribution of New Town Developments
伊勢、廣瀬、湊	A Study on Incentives to Encourage Driving License Holders to Return their Driving License

※下線は当研究所職員

4 おわりに

EASTSの国際会議を通して、国や地域によって交通問題は様々であり、アジアにおける交通問題が極めて多様であると感じた。また、各国の専門家たちは、出身や文化的背景は異なるかもしれないが、アジア及び世界中で起きている深刻な交通問題に対して共通の認識を有しているように見受けられた。当日は活発な質疑、議論が行われており、国境や組織の枠を超えて、研究、実務の情報交換、議論を継続して実施することの重要性を改めて感じた。

2021年の第14回EASTS国際会議は、日本（広島）で開催される予定である。

参考文献

- 1) EASTS, <http://www.easts.info/>